

「進化する腕時計」

(第四十五回)

いま、腕時計が進化中だ。時間だけではなく、ボイスレコーダーやオーディオプレーヤー、デジタルカメラまで搭載。通常のコンピュータを腕時計サイズにまで小さくできたというニュースには驚く。

実は、腕時計のライバルがいる。それは携帯電話。メールや着メロ、カメラ付きで時刻も表示されているので、腕時計の存在意義が問われている。しかし、救世主が現れた。「情報機器化した腕時計」だ。コンピュータと連動し、無線や指紋センサー、GPSまでの機能があるらしい。近い将来、ケータイに追い付き追い越すだろう。まさに映画で観るシーンがそのまま現実のものに。

さて、医療業界にも展開がみ

健康のススメ 板東 浩

られる。すでに脈拍がわかる時計や、指先をちょっと載せるだけで血圧が測れる腕時計が登場して活躍中。現在、糖尿病の人は、血糖を測るときに針で刺されて痛い目をしなければいけない。でも、センサーを皮膚

の上に置くだけで血糖を測定できる時代が、もうすぐそこに到来しているのだ。さらに、腕時計自体がコンピュータであり、各人の膨大な健康データや映像を軽く記憶できる。いつでも、どこでも、腕時計からカルテやフィルム情報が出てくるだろう。

私がいま考えている腕時計がある。頭に当てると、考えていることが文字となって現れたり、会いたい人がディスプレイに飛び出してくるような代物だ。もし発明できたら特許を取って売りたいので、よろしくね。

(医学博士・内科医師)